

2025 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|---|--------------|-----------------|---|----------------------|-----------------------|---------------|
| 学 科 | 臨床工学技士科(昼間部) | | 科目区分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
| 科目名 | 医療倫理学 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対象学年 | 2年 | | 学期及び曜時間 | 後期 | 教室名 | |
| 担当教員 | 吉田 秀和 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 医療倫理の4つの原則に従って、現代日本の「生殖医療(生殖ビジネス・代理母制度)」「医療看護・家族看護・生活設計」「延命治療」「安楽死と自殺補助」「脳死と臓器提供」についてその現状の提示をおこない、その問題点・課題点を学習する。授業を通じて社会的に注目される医療現場の諸問題を医療倫理という基準によって考察する能力を獲得するとともに、倫理基準の変更が生じる社会的状況の分析能力の修得を目指す。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 記述方式による期末試験を行う。試験評価は70%。 出席評価20%。 平常評価10%。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 教科書:『医療倫理超入門』岩波科学ライブラリー297 参考図書:『入門・医療倫理 I』勁草書房 参考資料は随時配布 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 授業内容は未消化の部分が無いように毎回の復習を欠かさないようにしてください。 また、さらなる理解を深めるためにも疑問が生じた場合、その初期の段階で参考図書にあたることや受講生同士での対話を通しての消化を目指すなどの習慣をつけておき、授業に臨んでください。さらに、事前配布のプリントには授業までに必ず目を通してください。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 講義内容を理解するためにも医療倫理に関連する新聞記事やニュースに日頃から目配りをして現状の把握に努めてください。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 社会の状況変化により非倫理的な医療行為が繰り返された社会的背景を理解することにより、医療倫理学の必要性を説明できる | テキスト 配布資料 映像資料 | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 19世紀から20世紀にかけての非倫理的な医療行為について | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 道徳・倫理・法律の関係について理解することにより、医療倫理の社会的な位置や関係性が説明できる | テキスト 配布資料 | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 社会における医療倫理学の位置について | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 哲学分野における倫理学の位置を理解することによって、人間の思考実験や理念による行為の在り方と医療倫理の系譜が説明できる | テキスト 配布資料 | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療倫理学の系譜について | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 旧来の医療倫理と医療の現状を理解することにより、医療倫理学が取り扱う分野を説明できる | テキスト 配布資料 | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 旧来の医療倫理学と生命倫理の関係について | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 医学的事実とそれを判断する人物による判断が異なることがあり、そのケースにおける倫理的判断の留意点を理解する | 配布資料 映像資料 | | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医学的事実と価値判断について | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|--------------|-----------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 医療倫理の4原則を理解することにより、共通したプラットフォームの下に医療倫理上の検討を行う技量が養える(その1) | 配布資料 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 善行原則と無危害原則 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 医療倫理の4原則を理解することにより、共通したプラットフォームの下に医療倫理上の検討を行う技量が養える(その2) | 配布資料 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 自律尊重原則と正義原則について | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 守秘義務と個人情報の保護が破棄されるケースを理解することにより、医療現場に求められる対応能力を養える | 配布資料 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 感染病患者への医療従事者の対応について | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 臨床症例への対応を整理・検討・理解に際して用いる4分割シートの活用方法を習得する。 | 配布資料 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療倫理の4原則と臨床症例をダックス・コワートの例をもとに整理する | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 臨床症例への対応を理解することにより、医療倫理の4原則と患者のQOLや周囲の状況に応じた対応を図る能力が養える | 配布資料 映像資料 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 医療倫理の4原則と患者のQOLの関連について | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 医療倫理の4原則や臨床症例への対応を交えて”できること”と”やってよいこと”の判断を社会の変化とともに考えることができる(その1) | 配布資料 映像資料 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 生殖技術と医療倫理の関係について | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 医療倫理の4原則や臨床症例への対応を交えて”できること”と”やってよいこと”の判断を社会の変化とともに考えることができる(その2) | 配布資料 映像資料 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 代理母制度と医療倫理と社会問題(海外と国内の状況)について | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 医療倫理の4原則や臨床症例への対応を交えて”できること”と”やってよいこと”の判断を社会の変化とともに考えることができる(その3) | 配布資料 映像資料 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 脳死と臓器提供(ドナーとレシピエントの現状と課題)について | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | ”できること”と”やってよいこと”のガイドラインを考える(その4) | 配布資料 映像資料 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 延命治療と尊厳死(リビングウィル)、医療現場の対応変化 | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 医療倫理の4原則や臨床症例への対応を交えて”できること”と”やってよいこと”の判断を社会の変化とともに考えることができる(その5) | テキスト 配布資料 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 尊厳死と医師による自殺助動(積極的安楽死)について | | |